[WEST SERIES R1-R3 REVIEW]

川端、石川、山下ら若手が引っ張る西日本シリーズ

今年も岡山国際サーキットで幕を開けたF4西日本シリーズ。全6戦で争われるのは従来どおりながら、最終戦の舞台として新たに富士スピードウェイが加えられている。

開幕戦に姿を見せたルーキーは川端伸太朗だけだったものの、伊沢拓也や塚越広大を育てたサクシードスポーツからのエントリーとあって大いに注目された。だが、予選はあいにくのウエットコンディション。F4でレインタイヤを履くのは初めてだった川端は6番手に留まる。一方、ポールポジションを獲得したのは昨年もスポット参戦で優勝経験を持つ石川京侍。路面状態が回復する中でのラストアタックで逆転。2番手には伴貴広が、3番手には久保宣夫がつけた。

決勝もセミウエットながら全車がスリックタイヤを装着。スタートを決めた石川は、伴を徐々に引き離していく。そんな中、スタートでふたつ順位を上げた川端が2周目には3番手に浮上。さらなるポジションアップはかなわなかったものの、今後に期待を抱かせる内容だった。

優勝の石川はFCJをメインに戦っているが、日程が重ならない限りF4にも積極的に参加することを明らかにした。

続く第2戦の舞台は鈴鹿サーキットの東コース。石川不在のレースで川端が本領を発揮し、ポールポジションを獲得する。とはいえ昨年のグランドチャンピオン、山口大陸がコンマ04秒という僅差で

M.Kamio

1 M.Kamio

2 M.Kamio

3 M.Kamio

1ポルシェカレラカップジャパンでも活躍する川端が第2～3戦を連勝する強さを示している。2 3開幕戦ウイナーの石川は第3戦にも参戦。トップ争いに加わったもののリタイアを喫し、後半戦の巻き返しがタイトル争いを左右しそうだ。

M.Kamio

川端、石川、山下らの若手がトップ争いを繰り広げる後ろで展開される第2集団。加藤、山口ら実力者に第3戦では女性ドライバーの三浦も加わった。山口、加藤といったメンバーも後半戦では優勝争いに参加してきそうな勢いを見せる。
M.Kamio

有力選手がラウンドごとに増える中で川端が2連勝を飾った

ROUND 1 OKAYAMA

●3月10日 ●岡山国際サーキット ●くもり／ドライ ●15周

Pos	No	Driver	Type	Machine	Time/Gap
1	12	石川京侍	KK-ZS	佐藤製作所Rnスポーツ☆ミストKKZS	23'38"072
2	70	伴　貴広	MC090	TeamNaoki☆DUNLOP☆MC	+6"092
3	18	川端伸太朗	F108	SUCCEED SPORTS F108	+15"702
4	7	山口大陸	F108	TAIROKU F108	+17"047
5	77	久保宣夫	W-976	セレクトジャパン☆MYST☆制動屋	+58"855
6	26	田中勝喜	WEST976	イーグルスポーツW006	−2Laps
	11	植田正幸	KK-ZS	Rn-sports☆MYST☆KKZS	D.N.S.

ROUND 2 SUZUKA

●5月12日 ●鈴鹿サーキット東コース ●晴れ／ドライ ●23周

Pos	No	Driver	Type	Machine	Time/Gap
1	18	川端伸太朗	F108	SUCCEED SPORTS F108	19'13"849
2	7	山口大陸	F108	TAIROKU F108	+17"107
3	12	飯田有希	KK-ZS	佐藤製作所TOMEIミストKK-ZS	+19"346
4	70	伴　貴広	MC090	DUNLOP☆TeamNaoki☆MC	+21"656
5	77	久保宣夫	W-976	セレクトジャパン☆MYST・制動屋976	+22"055
6	11	植田正幸	KK-ZS	Rn-Sports制動屋ミストKKZS	+22"492
7	35	髙橋忠克	KK-ZS	髙宮商事ミストKK-ZS	+23"432
8	44	塚田光彦	W-056	東海電装ウエストsprint東名関口	+37"279

ROUND 3 SUZUKA

●7月7日 ●鈴鹿サーキットフルコース ●晴れ／ドライ ●10周

Pos	No	Driver	Type	Machine	Time/Gap
1	18	川端伸太朗	F108	SUCCEED F108	26'02"622
2	14	山下健太	F108	ZAP・J・S・S・PFC・F108	+5"779
3	10	加藤　智	RK01	FEEL・RK01・TODA	+8"657
4	7	山口大陸	F108	TAIROKU F108	+8"972
5	15	三浦　愛	RD10W	EXEDY テイクファースト	+9"652
6	99	早坂公希	W-006	エクシズレーシング☆CMS006	+18"883
7	70	伴　貴広	MC090	DUNLOP☆TeamNaoki☆MC	+20"363
8	77	久保宣夫	KK-ZS	Team.Marusan☆AS・制動屋	+23"427
9	44	塚田光彦	W-056	東海電装ウエストsprint東名関口	+27"734
	37	長　優子	RK01	B-MAX・RK01・TODA	−5Laps
	82	栗原正之	RD10W	テクノクラフト はやぶさ F4	−8Laps
	12	石川京侍	KK-ZS	佐藤製作所☆Rn-sportsミストZS	−8Laps

続いており、楽な戦いは許されないものと思われた。ところが決勝では山口がスタートに出遅れ、代わって予選5番手だった伴が2番手に浮上する。山口は伴攻略に手間取り、15周目に前に出たが、その時すでにトップの川端ははるか彼方。残り8周を難なく逃げ切った川端が初優勝を飾り、チームにとっては04年の塚越以来の勝利となった。3位は石川の代役として起用された飯田有希が獲得。

続く舞台も鈴鹿ながら、フルコースでの開催とあってピットパドックにはより一層のにぎわいがあった。その中には石川同様、FCJをメインに戦う山下健太、そしてすでに東日本シリーズでデビューを果たしている11年の鈴鹿スーパーFJ王者の加藤智の姿もあった。第2戦の優勝で勢いをつけた川端は予選から他を圧倒。一時たりともトップを譲らず、2番手の山下にもコンマ8秒もの大差をつけてポールポジションを奪う。2列目には久々登場の栗原正之と石川が、3列目には三浦愛と加藤が並んだ。迎えた決勝レースは、波乱含みの展開となる。

山下をスタートでかわしたのは栗原。さらに川端にも迫る勢いを見せたが、1コーナーでの逆転はならなかった。逆に山下はダンロップコーナーで片輪をダートに落として石川の先行を許すも、2周目に入ると栗原ですら川端に引き離されていた。

3周目のスプーンで栗原がスピンを喫し、そこに3番手を争う2台が進入。山下は回避したものの、石川がまさかの激突。これでセーフティカーがコースに入り、せっかくのマージンが水の泡となった川端に2周後のリスタートでは山下が猛然と1コーナーで襲いかかる。だが、アウトからの攻めも実らなかった山下にとって、それが最初で最後のチャンスとなった。その後は何事もなかったかのように、川端が再び差を広げていったからだ。山下に続いて3位でゴールしたのは加藤。そして、最終ラップで山口に抜かれはしたが、三浦が自己ベストとなる5位を獲得している。この連勝によって、川端はついに西日本シリーズのランキングトップに躍り出た。

M.Kamio
F4参戦2年目、優勝経験もある伴は開幕で2位を得ている。第2戦以降は表彰台が遠いが、着実にポイントを重ねてきている。

DUNLOP F4東西シリーズはダンロップタイヤのワンメイクレースです
F4協会HP www.formula-racing.org